

① 申請者	会津 17 市町村(◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～			
④ ストーリーの概要(200字程度)			
<p>磐梯山信仰を取り込み東北地方で最も早く仏教文化が開いた会津は、今も平安初期から中世、近世の仏像や寺院が多く残り「^{ぶつとあいづ}仏都会津」とよばれる。その中でも三十三観音巡りは、古来のおおらかな信仰の姿を今に残し、広く会津の人々に親しまれている。</p> <p>会津藩祖、名君保科正之が定めた会津三十三観音巡りは広く領民に受け入れられ、のちに様々な三十三観音がつくられた。会津の三十三観音は、国宝を蔵する寺院から山中に佇むひなびた石仏までいたるところにその姿をとどめており、これら三十三観音を巡った道を、道中の宿場や門前町で一服しながらたどることで、往時の会津の人々のおおらかな信仰と娯楽を追体験することができるのである。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>慧日寺 ^{えにちじ}</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>会津三十三観音 (左下り観音堂) ^{さくだ}</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大内宿 (下野街道) ^{おおうちじゆく} ^{しもつけ}</p> </div> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	会津若松市観光課 広域観光グループ 一条 幸徳		
電 話	0242-39-1251	FAX	0242-39-1433
E-mail	ichijo@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp		
住 所	〒965-8601 福島県会津若松市東栄町 3-46 会津若松市役所第三庁舎		

市町村の位置図（地図等）

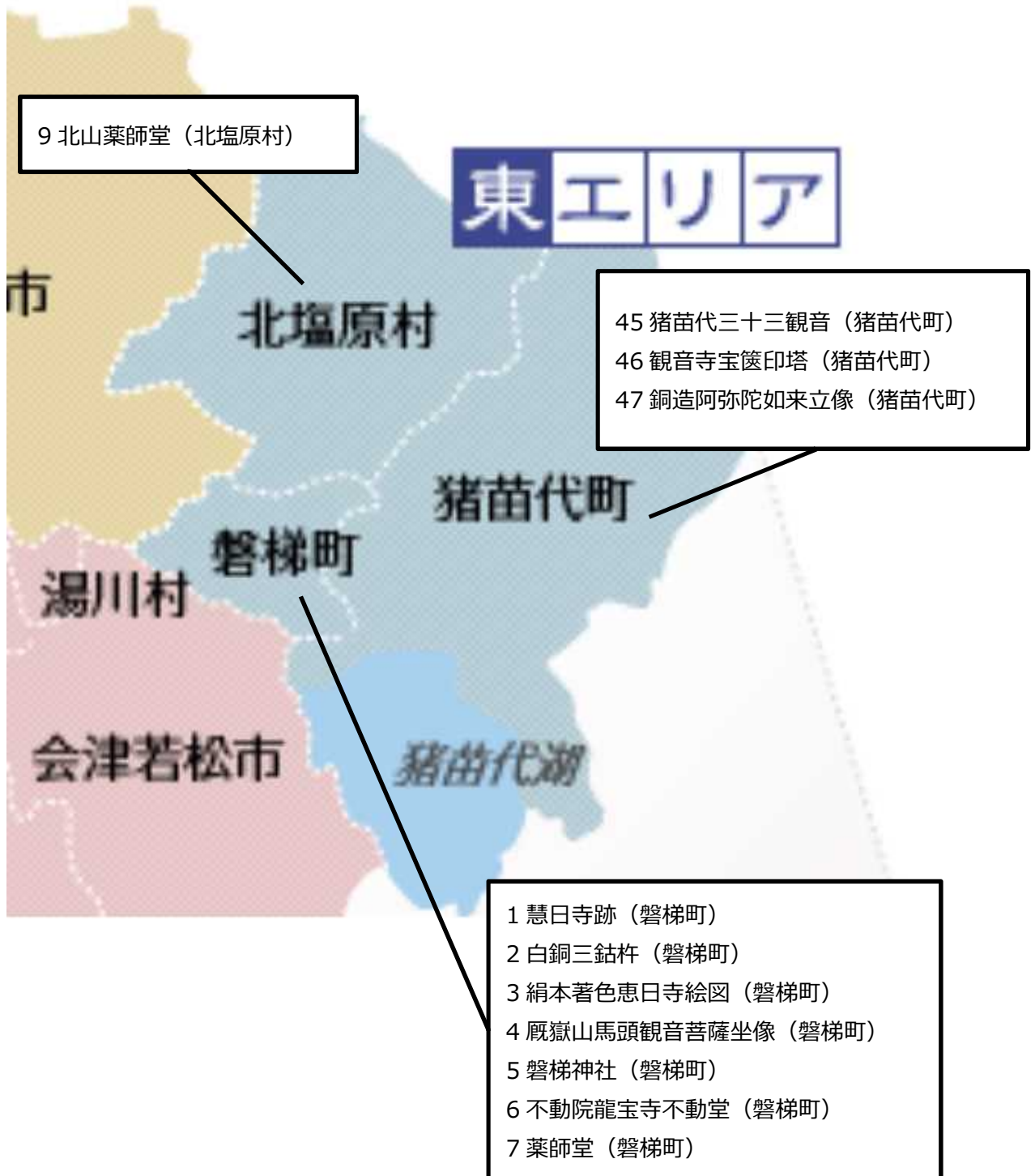


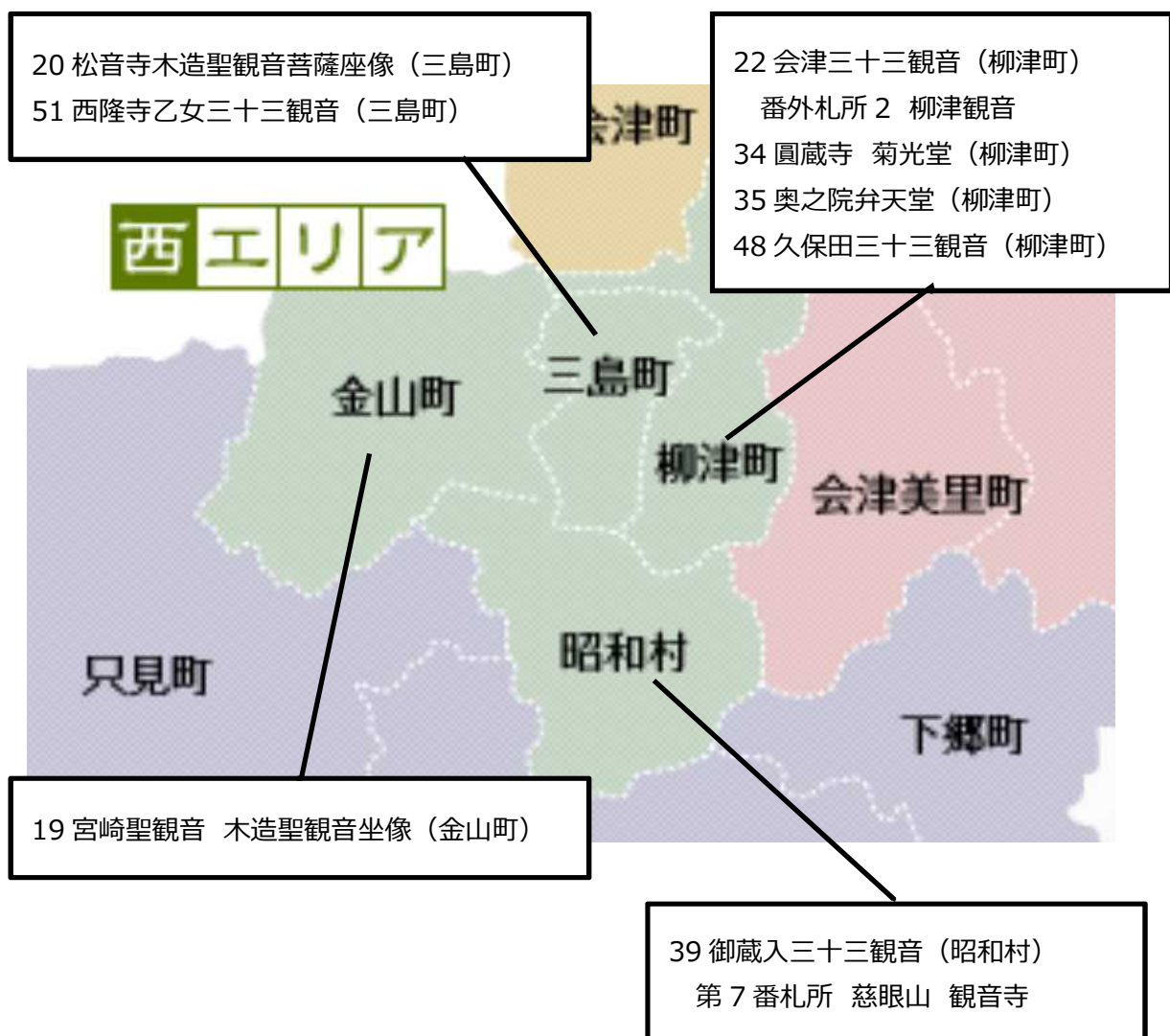
構成文化財の位置図（地図等）

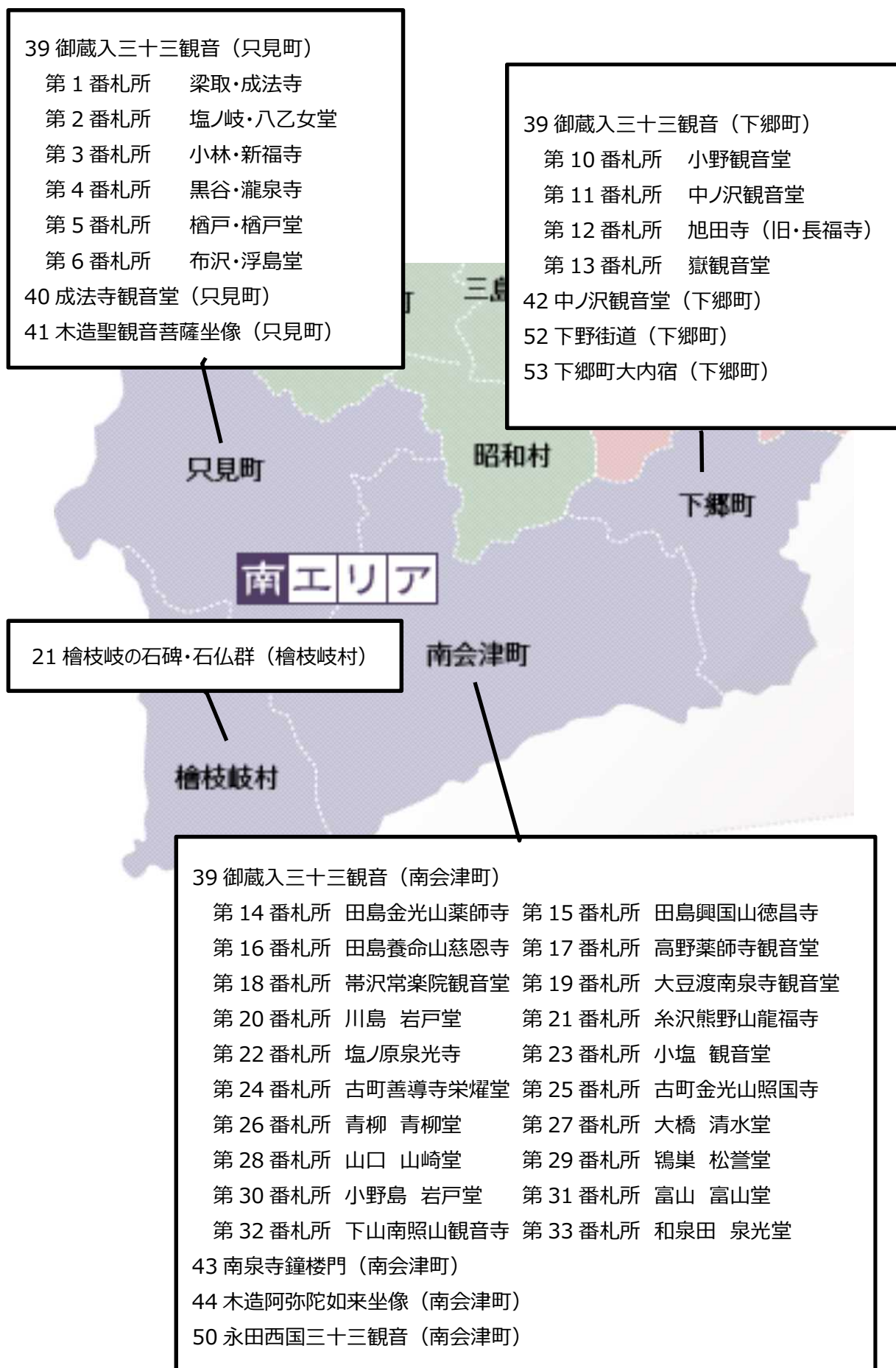
※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す

（様式 3 - 1 の番号に対応させること）









- 14 木造薬師如来坐像（喜多方市）
15 木造阿弥陀如来及両脇侍坐像（喜多方市）
18 木造文珠菩薩騎獅像（喜多方市）
22 会津三十三観音（喜多方市）
 第 1 番札所 大木観音 第 2 番札所 松野観音
 第 3 番札所 綾金観音 第 4 番札所 高吉観音
 第 5 番札所 熱塩観音 第 6 番札所 勝観音
 第 7 番札所 熊倉観音 第 8 番札所 竹屋観音
 第 9 番札所 遠田観音
23 勝福寺観音堂（喜多方市）
24 木造如意輪観音坐像（喜多方市）



- 16 円満寺観音堂（西会津町）
22 会津三十三観音（西会津町）
 番外札所 3 鳥追観音
36 如法寺観音堂附仁王門（西会津町）
37 銅像聖観音坐像（西会津町）
38 木造聖観音立像、木造金剛力士像（西会津町）

ストーリー

1 仏教文化が花開いた会津の地勢と背景

太古の昔より、厳しい冬の豪雪と、一方その雪解け水がもたらす豊かな恵みという自然に生まれ、人々が暮らしてきた会津。東北地方で唯一古事記にその名を残す会津は、四周を深い山々に囲まれた辺境の地でありながらも、日本海側と太平洋側からの文化が出会う場所として、また東北地方への入り口として、地政学的な要衝であった。古墳時代にはすでに中央国家との交流があったことから、仏教伝来と同時期に開かれたという高寺伝承に見られるように、会津は仏教文化の流入も早かった。

会津へ伝わった仏教は、平安初期、奈良の東大寺や興福寺で学んだ僧・徳一が、山の神、磐梯明神を守護神として会津磐梯山の麓に開いた慧日寺によって会津一帯に広められた。慧日寺は、自然崇拝を素地とする会津の磐梯山信仰を受け継ぎ、仏教的に組み替えることで会津の信仰の中心となった。さらに徳一は会津五薬師ほか多くの寺院を開いて、人々の素朴な信仰を仏教、薬師・観音信仰に取り込んでいった。こうしたことにより会津は、今も勝常寺の薬師如来坐像をはじめとする平安初期から中世、近世の仏像や寺院が多く残り、東北地方でいち早く仏教文化が花開いた地として「仏都会津」と呼ばれる。その中でも三十三観音巡りは、娯楽と一体となったおおらかな信仰の姿を今に残し、広く会津の人々に親しまれている。



木造徳一菩薩坐像



慧日寺 金堂



絹本着色恵日寺絵図



木造薬師如来

2 会津三十三観音の始まり

三十三の姿に身を変えて衆生を救うといわれる観音信仰から、平安時代に始まったとされる三十三観音巡り。本家西国三十三観音の成立以後、坂東三十三観音など全国各地にさまざまな三十三観音がつくられた。

会津の三十三観音巡りは、会津藩祖保科正之により始まった。寛政20年（1643）、会津に入封した保科正之は、3代将軍徳川家光の異母弟として生まれ、家光と4代将軍家綱を支え江戸幕府の基礎を築いた名君として知られる。

保科正之が入封した当時は、徳川幕府の成立により治安や経済も安定し、参勤交代のための街道の整備も進んだため、全国的に伊勢参りや熊野参詣、西国三十三観音巡りなどが盛んであった。これは遠く離れた会津の領民の間でも同じで、片道ひと月、往復二日以上かかる大旅行に多くの人が出かけていた。この様子をみた殿様は、巡礼のために多額の費用が領外に流れることを案じて巡礼を禁止した。しかし巡礼は、観音様のご利益を願う民衆の信仰に基づくものであり、また諸国を観光する娯楽の側面もあったことから、単純に押さえつけることはできない。そこで代わりに会津三十三観音を定めたのである。領民の不満を募らせずに、資金、労働力の流出を防ぐ、名君の采配であった。

会津藩の領内には徳一の時代からの由緒ある仏寺がいたるところにあったこと、また、古代の霊場巡り以来の観音巡りが盛んな土地柄であったことから、老男女をはじめとした多くの領民たちによって、とくに農村部の女性たちによって盛んに三十三観音巡りが行われるようになった。こうして家を出て羽を伸ばすことの少ない彼女たちは、日頃の悩みを相談したり、温泉につかったりと、仲間とともに親睦と娯楽を兼ねた数日間の巡礼を楽しんだ。

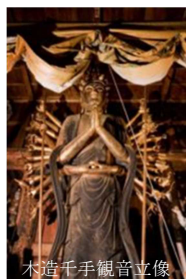
さらに保科正之が、街道や宿駅を本格的に整備したことにより、会津領内だけでなく近隣の藩からも巡礼に訪れる人で賑わった。会津五街道の一つ下野街道の大内宿では、蕎麦好きの正之が前任地から連れてきた職人によって会津に広めら

れた^{たかとおそば}高遠蕎麦や、ご飯を丸めて串にさし、地元ではじゅうねんと呼ばれるエゴマの味噌をぬって炭火で香ばしく焼いた素朴な郷土食しんごろうが、今も訪れる人の舌をうならせている。

殿様のアイディアにより身近になった観音霊場「会津三十三観音」は観音信仰と娯楽が結びつく形で領民たちに広く受け入れられた。



会津三十三観音（左下り観音）



木造千手観音立像



下野街道・大内宿



高遠蕎麦・ねぎそば



しんごろう

3 その他の会津の三十三観音

その後会津には、南山地域の領民の^{ほつがん}発願により始まった御蔵入（奥会津）^{おくらいり}三十三観音や、城下町の寺を巡る^{まちまわ}町廻り三十三観音、小高い丘陵の中腹に地区の人が願いを込めて一戸一体刻んだ三十三体の観音像が安置されている久保田三十三観音など、さまざまな三十三観音がつくれ今に残る。

その一つ寛政八年（1796）に建立された^{きゅうしょうそうじさんそうどう}旧正宗寺三匠堂は、通称さざえ堂と呼ばれる^{らせん}螺旋状の三層六角の特徴的な観音堂である。

上りと下りが全く別の通路となる特殊な木造^{にじゅうらせん}二重螺旋構造により、参拝者はスロープを一方通行に進んで堂の天井部に至り、そのまま違うスロープを下って他の参拝者とすれ違うことなく出口にたどり着く。かつては三十三体の観音像がスロープに沿って安置され、参拝者はこの堂を一巡することで西国三十三観音巡りができるとされた。さざえ堂は、この不思議な建物を巡る楽しさと、手軽さから庶民の人気を博した。^{はいぶつきしゃく}廃仏毀釈により観音像は散逸したが、世界にも類を見ない独特の建物は、今も堂の内部を一巡すると異世界を潜り抜けるような不思議な感覚を体感できる。



4 三十三観音めぐりで感じる庶民の巡礼と娯楽

会津に三十三観音が定められてからは、体力的にも費用的にも身近なものとなり、人々は田畑の仕事が一段落した頃、三十三か所それぞれの^{ごえいか}「御詠歌」を唱えて霊場を巡礼した。

会津の三十三観音は、国宝^{ぞう}を蔵する寺院から山中に佇むひなびた石仏までその形は様々だが、今も息づく観音信仰に守られて地域のいたるところにその姿をとどめており、これら三十三観音を巡った道を、道中の宿場や門前町で一服しながらめぐること、往時の会津の人々のおおらかな信仰と娯楽を追体験することができるのである。



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	慧日寺跡 (えにちじあと)	国史跡	仏都会津の礎を築いた徳一が最初に開創した寺院跡。	磐梯町
2	白銅三鈷杵 (はくどうさんこしよ)	国重文 (工芸品)	会津に仏教を広めた徳一に関して現存する唯一の遺品ともいえる。	磐梯町
3	絹本著色恵日寺絵図 (けんぼんちゃくしよくえにちじえず)	県重文 (歴史資料)	会津の信仰の中心となった慧日寺。15世紀初めごろの作とみられる社寺絵図。中央に描かれた金堂を中心とする多くの伽藍と、参道両側に建並ぶ門前の家並によって慧日寺盛時の広がりを知ることができる。	磐梯町
4	厩嶽山馬頭観音菩薩坐像 (うまやさんばとうかんのんぼさつぎぞう)	町有形 (彫刻)	自然崇拝を素地とする信仰が仏教に取り込まれていった例。磐梯山の西方に位置する厩岳山は、会津地方の馬頭観音信仰の本山ともいわれ篤い信仰を集めた。山上の観音堂は慧日寺が司った。会津仏教文化の多様性とその歴史の深さを物語る。	磐梯町
5	磐梯神社 (ばんだいじんじゃ)	未指定	慧日寺の鎮守社としての起源を持つことから、創建1,200年の由緒を持つ。磐梯明神と慧日寺は不可分の関係にあった。	磐梯町
6	不動院龍宝寺不動堂 (ふどういんりゅうほうじふどうどう)	町有形 (建造物)	慧日寺の傍らに建つ修験寺院の建物遺構。上記3にも多くの修験の社が描かれており、霊峰磐梯山を仰ぐこの地には、古くから多くの修験者が集ったことが知られている。慧日寺は単に仏教のみならず、複雑な宗教形態にあったことを物語る。	磐梯町
7	慧日寺 薬師堂 (えにちじやくしどう)	町有形 (建造物)	慧日寺の本尊は、会津五薬師のうち東方薬師として知られる。	磐梯町
8	勝常寺 薬師堂 (しょうじょうじやくしどう)	国重文 (建造物)	勝常寺は807年、徳一によって開かれた東北を代表する古刹。創立された当時は七堂伽藍が備わり、多くの附属屋、十二の坊舎、百余カ寺の子院を有する一大寺院であったと伝えられている。	湯川村
9	北山薬師堂 (きたやまやくしどう)	未指定 (有形文化財)	徳一の創建とされる会津五薬師の一つ。北方薬師と呼ばれ、平安時代にさかのぼる仏都会津の一角をなす。	北塩原村
10	上宇内薬師・木造薬師如来坐像 (もくぞうやくしによらいざぞう)	国重文 (彫刻)	徳一の創建とされる「会津五薬師」の西方薬師御本尊。現存する薬師は上宇内薬師堂と勝常寺のみ。	会津坂下町

1 1	野寺薬師堂 (のでらやくしどう)	未指定 (有形文化財)	徳一の創建とされる会津五薬師の一つ南方薬師と呼ばれており、平安時代にさかのぼる仏都会津の一角をなす。	会津若松市
1 2	藤倉二階堂・延命寺地藏堂 (えんめいじじぞうどう)	国重文 (建造物)	徳一の創建とされ、室町初期から中期の作と推定。信仰の場として守られてきた。この建物の屋根は唐様の重層建築で周囲に円柱で支えた裳階がつけられ二階建てのように見えるため、「藤倉二階堂」と親しまれている。	会津若松市
1 3	勝常寺・木造薬師如来坐像 (もくぞうやくしによらいざぞう)	国宝 (彫刻)	今も会津に残る仏像の一つ。徳一の創建とされる「会津五薬師」のうち中央薬師といわれる勝常寺の薬師如来と両脇侍は、仏都会津を象徴する仏像。	湯川村
1 4	中善寺・木造薬師如来坐像 (もくぞうやくしによらいざぞう)	国重文 (彫刻)	今も会津に残る仏像の一つ。平安時代後期の作であり、当時の都である京都方面の仏像様式・定朝様(じょうちょうよう)で造られていることから、中央から会津に運ばれてきたものと考えらる。	喜多方市
1 5	願成寺・木造阿弥陀如来及両脇侍坐像 (もくぞうあみだによらいおよびりょうきょうじざぞう)	国重文 (彫刻)	今も会津に残る仏像の一つ。古くから会津大仏と呼ばれ、地域の人々の信仰を集めてきた。光背にある千体化仏は、かつて周辺の村から戦地に出征した人々がお守りとして携えていったと伝えられ、信仰の厚さを知ることができる。	喜多方市
1 6	円満寺観音堂 (えんまんじかんのんどう)	国重文 (建造物)	今も会津に残る寺院の一つ。室町時代末期に建立された唐様建築の観音堂。「子守り観音」として古くから信仰を集める。	西会津町
1 7	八葉寺阿弥陀堂 (はちようじあみだどう)	国重文 (建造物)	今も会津に残る寺院の一つ。空也上人により建立されたと伝えられ、古来より会津の高野山と称されている寺院である。	会津若松市
1 8	新宮熊野神社の文珠堂・木造文珠菩薩騎獅像 (もくぞうもんじゅぼさつきしぞう)	県重文 (彫刻)	今も会津に残る仏像の一つ。新宮熊野神社の文珠堂本尊であり、知恵・学問の仏様として地域の人々の信仰を集めてきた。文珠堂は、会津熊野と称されていた新宮熊野神社境内にあり、磐梯(いわはし)神社を習合していた慧日寺をはじめ、古来より根付いていた神仏習合の信仰、熊野信仰を伝える遺品として貴重である。	喜多方市
1 9	宮崎聖観音堂 木造聖観音坐像 (もくぞうしょうかんのんざぞう)	県重文 (彫刻)	今も会津に残る仏像の一つ。平安末期の様式の流れを汲む鎌倉時代中期の作品。印を結ぶ指先が「おはじき」のしぐさに似ていることから『おはじき観音』とも呼ばれる	金山町
2 0	松音寺 木造薬師如来坐像 (もくぞうやくしによらいざぞう)	町指定有形文化財	今も会津に残る仏像の一つ。台座及び胎内に墨書銘があり、造立の時期、その意図、仏師名が明らかで、江戸初期の造仏様式を示す一つの標識として貴重なもの。	三島町

[illegible]

25	勝常寺・木造十一面観音立像、木造聖観音立像 (もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう、もくぞうしょうかんのりゅうぞう)	国重文 (彫刻)	会津三十三観音第 10 番札所。勝常観音。平安時代初期の仏像群。これだけ多くの平安初期の仏像が一ヶ所に保存されているのは我が国でも珍しい。	湯川村
26	左下山観音寺・左下り観音堂 (さくだりかんのらう)	県重文 (建造物)	会津三十三観音第 21 番札所。左下り観音。建立以来 1,000 年以上といわれる左下り観音堂は、別名「くびなし観音」とも言われ、山の中腹にある岩を切り開いて構築した見事な三層閣で、観音(くびなし観音)が安置されている。	会津美里町
27	福生寺観音堂 (ふくしょうじかんのらう)	国重文(建造物)	会津三十三観音第 26 番札所。富岡観音。文安 3 年(1146)の巡礼札が発見されており、会津中世建築の貴重な遺構。像高約 220cm の大きな十一面観音菩薩坐像が祀られている。	会津美里町
28	法用寺観音堂 (ほうようじかんのらう)	県重文 (建造物)	会津三十三観音第 29 番札所。雀林観音。会津坂下町の恵隆寺に次いで、会津で二番目に古い寺院である。702 年(養老 4 年)、徳道上人による開基と言われているが、その後火災により焼失し、徳一が再興。現在の地に堂塔が再建されたと伝わる。「会津ころり三観音」の一つ。	会津美里町
29	法用寺・木造十一面観音立像、木造十一面観音立像 (もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう、もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう)	県重文(彫刻)	木造十一面観音立像は桂と櫓の二体あり、どちらも一木彫成。両像とも藤原前期の作。	会津美里町
30	弘安寺・弘安寺旧観音堂厨子 (こうあんじきゅうかんのらうずし)	国重文(建造物)	会津三十三観音第 30 番札所。中田観音。もと本堂の厨子であった。鎌倉時代の作。会津としては最古のものの一つであり、手法もよい。	会津美里町
31	弘安寺・弘安寺銅造十一面観音及び脇侍不動明王・地藏菩薩立像 (こうあんじどうぞうじゅういちめんかんのらうおよびわきじふどうみょうおうじぞうばさつりつぞう)	国重文 (彫刻)	地域内外から信仰を集めている。野口英世の母、シカの信仰も厚く猪苗代から月参りをした観音様としても知られている。「会津ころり三観音」の一つ。	会津美里町
32	恵隆寺・恵隆寺観音堂 (えりゅうじかんのらう)	国重文 (建造物)	会津三十三観音第 31 番札所。立木(塔寺)観音。寺伝によると建久年間(1200 年頃)の建立と伝えられる。豪放でどっしりとしたこの堂は、鎌倉時代の遺構を残す和様の古建築。「会津ころり三観音」の一つ。	会津坂下町
33	恵隆寺・木造千手観音立像 (もくぞうせんじゅかんのりゅうぞう)	国重文 (彫刻)	7 メートル余りの巨大な千手観音立像は、カツラの霊木の立木に直接掘り込んだという一木造りで、床下にはいまなお根があるといわれている。	会津坂下町

[illegible]

			第 27 番札所 大橋 清水堂 第 28 番札所 山口 山崎堂 第 29 番札所 鵜巢 松誉堂 第 30 番札所 小野島 岩戸堂 第 31 番札所 富山 富山堂 第 32 番札所 下山南照山観音寺 第 33 番札所 和泉田 泉光堂	// // // // // // //
4 0	成法寺観音堂 (じょうほうじかんのんどう)	国重文 (建造物)	徳一によって平安時代初期に開かれたと伝えられている。土地のほぼ中央に位置する観音堂は桃山時代初期の建立と言われ、茅ぶき、寄せ棟造りで廻り縁のある構造となっている。寺の裏には奇岩怪石が並ぶ仏地山がそびえ、古くから信仰の対象になっていたようであり、弘法大師空海が訪れたとの伝説も残されている。	只見町
4 1	成法寺・木造聖観音菩薩坐像 (もくぞうしょうかんのんぼさつざぞう)	県重文 (彫刻)	この像が安置されている成法寺観音堂は、平安時代の初期に徳一によって開かれた法相宗の道場の跡と伝えられている。中に安置されている聖観音像は、肌に近い独特の彩色から「人肌観音」とも呼ばれている。	只見町
4 2	旭田寺中ノ沢観音・観音堂 (かんのんどう)	国重文 (建造物)	南山三十三観音第 11 番。中ノ沢観音堂。 徳一が開山した観音堂であり、室町初期に再建され南北朝様式を今に伝えており、周囲の池などの光景とともに仏を体現できる霊験の地となっている。	下郷町
4 3	南泉寺鐘楼門 (なんせんじしょうろうもん)	県重文 (建造物)	南山三十三観音第 19 番。南泉寺観音堂。	南会津町
4 4	善導寺・木造阿弥陀如来坐像 (もくぞうあみだによらいざぞう)	県重文 (彫刻)	南山三十三観音第 24 番。栄耀堂。 藤原時代の名作にして俗に黒仏様と称し、古い歴史と伝説に富む御仏あり、京都より下された。	南会津町
4 5	猪苗代三十三観音 (いなわしろさんじゅうさんかんのん)	未指定	五穀豊穰、子孫繁栄を祈念して猪苗代地区で定められた三十三の観音札所。 第 1 番札所 観音寺 第 2 番札所 安穏時 第 3 番札所 西勝寺 第 4 番札所 沼ノ倉 阿弥陀堂 第 5 番札所 今泉 観音堂 第 6 番札所 伯父ヶ倉 太子堂 第 7 番札所 天徳寺 第 8 番札所 荻窪 地藏堂 第 9 番札所 内野 観音堂 第 10 番札所 隣松院 観音堂 第 11 番札所 関脇 優婆夷堂 第 12 番札所 山湯 第 13 番札所 宝性寺 第 14 番札所 小平湯 観音堂 第 15 番札所 中ノ目 愛宕神社 第 16 番札所 入江 比丘尼堂 第 17 番札所 蜂屋敷 観音堂	猪苗代町

			第 18 番札所 相名目 地蔵堂 第 19 番札所 嘉堂観 安養寺 第 20 番札所 百日貫 地蔵堂 第 21 番札所 島田 地蔵堂 第 22 番札所 釜井 第 23 番札所 烏帽子 第 24 番札所 東真行 第 25 番札所 大在家 観音堂 第 26 番札所 西真行 観音堂 第 27 番札所 新在家 観音堂 第 28 番札所 五十軒 観音堂 第 29 番札所 行津 大悲堂 第 30 番札所 戸ノ口 観音堂 第 31 番札所 蟹沢 観音堂 第 32 番札所 西窪地蔵大菩薩堂 第 33 番札所 長照寺 番外 1 番札所 長坂 観音堂 番外 2 番札所 大原 観音堂 番外 3 番札所 志津 文珠堂 番外 4 番札所 恵日寺 番外 5 番札所 能満寺 観音堂 番外 6 番札所 三丈湯 観音堂 番外 7 番札所 樋ノ口 観音堂 番外 8 番札所 西館 観音堂	
4 6	観音寺宝篋印塔 (かんのんじほうきょう いんとう)	県重文 (建造物)	猪苗代三十三観音第 1 番。幸野観音堂。観音寺の本堂前にある安山岩の石塔。古型で重厚さがうかがわれる。本塔は会津の東部に盛行した宝篋印塔を知る好資料であり、銘文は地方史の重要な資料である。	猪苗代町
4 7	安隠寺・銅造阿弥陀如来 立像 (どうぞうあみだによら いりゅうぞう)	国重美 (彫刻)	猪苗代三十三観音第 2 番。安隠寺。銅造阿弥陀如来立像は安隠寺の本尊とされ、1271 年(文永 8 年)に青銅で鑄造されたものでは会津最古のものといわれている。	猪苗代町
4 8	久保田三十三観音 (くぼたさんじゅうさん かんのん)	町指定 (彫刻)	久保田地区の小高い丘陵に三十三体の石の観音菩薩が安置され、「まわり観音」とも呼ばれている。 文政元年(1818 年)、地区の人が願いを込めて、一戸一体刻んだ石の観音像がひっそりと佇んでいる。 一まわり 234m に聖観音、如意観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音など、三十三体の観音石像が 5～6m おきに安置されている。十字架を手にした「マリア観音」と呼ばれる珍しい観音様を見ることが出来る。	柳津町
4 9	町廻り三十三観音 (まちまわりさんじゅう さんかんのん)	未指定	『会津鏡』によると創始年代は宝永年間(1704～1710)頃。鶴ヶ城下にあった三十三観音で、「若松三十三観音」「城廻り三十三観音」「三十三所札所」とも呼ばれていた。	会津若松市
5 0	永田西国三十三観音 (ながたさいごくさんじ ゅうさんかんのん)	未指定	南会津町永田地区の鷲山の山腹に三十三体の観音様が、およそ 3 km の山道に沿って並んでおり、山道を一周すると西国三十三観音を巡礼したのと同じ功德があると伝えられる。	南会津町

5 1	西隆寺乙女三十三観音 (おとめさんじゅうさん かんのん)	未指定	境内に柔和な笑みをたたえる三十三 体の乙女観音が点在している。	三島町
5 2	下野街道 (しもつけかいどう)	国史跡	寛永 2 0 年 (1 6 4 3) に保科正之に よって本格的に整備された、会津若松 城下から下野今市に至る全長 1 3 0 km 余りの街道。 会津から江戸への最短の道で、会津藩 の年間数万俵にも及ぶ江戸廻米の輸 送路でもあり、会津藩、北越後の新発 田藩、村上藩、出羽の庄内藩、米沢藩 などの参勤交代にも使用された。	下郷町
5 3	下郷町大内宿 (しもごうまちおおうち じゅく)	国重要伝統的 建造物群保存 地区	大内宿は下野街道の宿場町。江戸時代 初期、保科正之によって本格的に整備 された。	下郷町
5 4	旧正宗寺三匠堂 (きゅうしょうそうじさ んそうどう)	国重文 (建造物)	通称さざえ堂。江戸時代末期まで、西 国三十三観音像を奉った巡礼観音堂。 往復路を異にする二重螺旋型のスロ ープにそって、三十三観音参りがで きるという庶民信仰の一端を示すお堂 である。	会津若松市

構成文化財の写真一覧

1 慧日寺跡（磐梯町）



2 白銅三鈷杵（磐梯町）



3 絹本着色恵日寺絵図（磐梯町）



4 厩嶽山馬頭観音菩薩坐像（磐梯町）



5 磐梯神社（磐梯町）



6 不動院龍宝寺不動堂（磐梯町）



7 慧日寺 薬師堂 (磐梯町)



8 勝常寺 薬師堂 (湯川村)



9 北山薬師堂 (北塩原村)



10 木造薬師如来坐像 (会津坂下町)



11 野寺薬師堂 (会津若松市)



12 延命寺地藏堂 (会津若松市)



13 木造薬師如来坐像 (湯川村)



14 木造薬師如来坐像 (喜多方市)



15 木造阿弥陀如来及両脇侍坐像 (喜多方市) 16 円満寺観音堂 (西会津町)



17 八葉寺阿弥陀堂 (会津若松市)



18 木造文珠菩薩騎獅像 (喜多方市)



19 木造聖観音坐像 (金山町)



20 木造薬師如来坐像 (三島町)



21 檜枝岐の石碑・石仏群 (檜枝岐村)



22 会津三十三観音 (喜多方市・湯川村・会津坂下町・会津若松市・会津美里町・柳津町・西会津町)



23 勝福寺観音堂 (喜多方市)



24 観音寺・木造如意輪観音坐像 (喜多方市)



25 勝常寺・木造十一面観音立像、木造聖
観音立像 (湯川村)



27 福生寺観音堂 (会津美里町)



28 法用寺観音堂 (会津美里町)



29 法用寺・木造十一面観音立像、木造
十一面観音立像 (会津美里町)



30 弘安寺旧観音堂厨子 (会津美里町)



31 弘安寺銅造十一面観音及び脇侍不動明王・地藏菩薩立像 (会津美里町)



32 恵隆寺観音堂 (会津坂下町)



33 恵隆寺・木造千手観音立像 (会津坂下町)



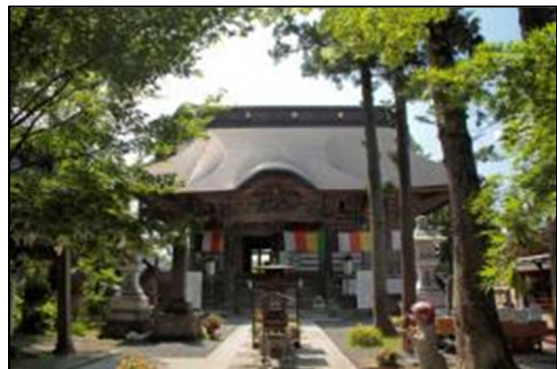
34 圓藏寺・菊光堂 (柳津町)



35 圓藏寺・奥之院弁天堂 (柳津町)



36 如法寺観音堂 附 仁王門 (西会津町)



37 銅像聖観音坐像（西会津町）



38 如法寺・木造聖観音立像、木造金剛力士像
（西会津町）



39 御蔵入三十三観音・第7番佐倉観音寺
（只見町・昭和村・会津美里町・下郷町・
南会津町）



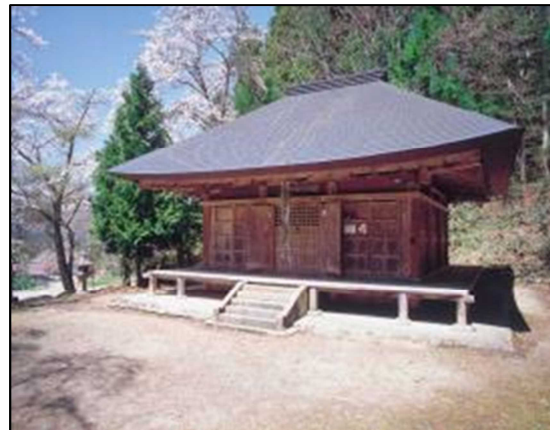
40 成法寺観音堂（只見町）



41 成法寺・木造聖観音菩薩坐像（只見町）



42 中ノ沢観音・観音堂（下郷町）



43 南泉寺鐘楼門（南会津町）



44 木造阿弥陀如来坐像（南会津町）



45 猪苗代三十三観音（猪苗代町）



46 観音寺宝篋印塔（猪苗代町）



47 銅造阿弥陀如来立像（猪苗代町）



48 久保田三十三観音（柳津町）



49 町廻り三十三観音 (会津若松市)



50 永田西国三十三観音 (南会津町)



51 西隆寺乙女三十三観音 (三島町)



52 下野街道 (下郷町)



53 下郷町大内宿 (下郷町)



54 旧正宗寺三匠堂 (会津若松市)

